

★今週の聖句

「安息日に律法で定められているのは、善を行うことか、悪を行うことか。」
マルコによる福音書 3:4

★ ねらい

- ・ イエス様が命を狙われることになっても片手の萎えた人を助けられたことを覚えてほしい。それはその人を愛し、その人を人々の交わりに帰すためである。
- ・ ファリサイ派の人々の思いに反し、人々はイエス様のもとに集まってきた。本当に正しいもの、光あるところにこそ、人は集まることを覚えてほしい。

★ 説教作成のヒント

- ・ 片手の萎えた人がいた—実際は「萎えた（枯れた）手を持つ人がいた」
- ・ ファリサイ派の人々も命の危険があるときには安息日であろうが、治療を進めていた。この場合は緊急ではないので、イエス様が後日癒せば、衝突は避けられた。それなのに今、この時に癒されたのには意味があるといえよう。真ん中に立たせることにその意味は通じる。
- ・ 安息日の律法に関しては申命記5章に書かれている。またサムエル記上21章にはダビデが規則を破って祭壇に献げられたパンをもらって食べたことが記されている。
- ・ 立ち去る—退却すること。

★ 豆知識

- ・ 7-8節に町の名前が出ているが、これはガリラヤを取り巻く地域が時計の反対まわりに列挙されている。イエス様の死後、成立する教会の普遍的な広がりや既に象徴していると考えられる。
- ・ おびたしい群衆—大きな群れを指す。ガリラヤから従った大群とそれ以外の大群は（イエス様の噂と働きを）聞いて来た。二つの群衆が集まっている。

★ 説教

クラスの中であの人は人気があるなあと思う人はいるでしょうか。面白いことを言う人やかっこいい人はたくさんの人から注目されます。わたしも注目されたいと思ったことはないでしょうか。誰かから注目されるということはいれしさとそして恥ずかしさをもたらすものです。学校で先生たちが生徒である皆さんに接するとき、なるべく目立たない子どもにも目を注ぐようにするのだそうです。どうしても良くも悪くも目立つ子どもだけに先生の目を注ぎがちなので、気をつけないと特定の子もだけを見るようになってしまい、目立たない子が出て来てしまうのだそうです。けれども、目立たないように見えるその子たちが目を注がれたときのうれしさや恥ずかしさの混ざった表情を大事にするとき、その子どもも成長していくことができるのです。

今日、イエス様は一人の手が曲がったままの人の手を治される、癒される奇跡をおこされました。その時です。手が曲がったままの人に「真ん中に立ちなさい」と言われました。今まで目立つことのない、人気のないこの人をみんなの真ん中に立たせました。みんなの視線はどこに集まるのでしょうか。そうです。この人のところにみんなの視線が集まりました。今までほとんど見たことのない人でした。「この人を治してあげることはいいことか悪いことか」と質問されたイエス様に周りの人たちは答えませんでした。答えが分からなかったのではなく、正しいことだと分かっていたのにです。実はこの人のことをあまり知らなかったのです。イエス様が治してくださってもどちらでもよかったのです。で

も、イエス様はこの人を見つめて癒されました。そこにはこの人への深い愛がありました。また真ん中に立たせたのはこの人はあなたたちの仲間ですよ、大事にしてくださいと教えられるためなのです。真ん中にいる人を見ないことはありません。今日からこの人も仲間なのです。

イエス様の働きはただ治すだけではありません。目立たないことも愛して、みんなの仲間、大切な人ですよと教えてくださるのです。たとえ、命を狙われても一人の人を助けるために、仲間にするために一生懸命だったイエス様のように私達も命を救う、相手を見つめ、愛する生き方をしましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

26番

改訂版120番

やってみよう

「善？それとも悪？」

<準備するもの> 赤と黒の色画用紙（白い紙でもOK!）、善と悪の質問カード

- ① 赤と黒の用紙をハートの形に切る。（半分に折って切るときれいなハートの形になるよ）
※白い用紙の場合は、赤と黒のペンやクレヨンなどでハートを描く。
- ② リーダーは質問する。「これは善いこと？悪いこと？」
善いと思ったら赤いハートに書き込む。悪と思ったら黒いハートに書き込む。低学年は、あらかじめリーダー書き込んだ善悪カードを貼っても良い。
- ③ 最後に今日の聖書でイエス様がなさった、安息日に手の萎えた人をいやした出来事についても質問する。
- ④ 頭ではわかっているけど、ついまちがった行動をしてしまうこともあるよね。
そんなときは、どうしたらよいのでしょうか？考えてみましょう。神さまはすべてを知っておられます。

<善と悪の例>

- ・電車の中でおばあさんが乗ってきたけど、疲れてたので寝たふりをした。
- ・教会の前に空き缶が落ちていたので、拾ってゴミ箱に捨てた。
- ・買い物をして、おつりを多くもらったけど、「ラッキー」と思って財布に入れた。

はなそう

- イエス様はどうして片手が萎えた人を真ん中に立たせたのでしょうか。その人の気持ちは嬉しい？
- イエス様が怒られることは少ないけれども、今回は怒っておられます。どうしてでしょうか？
- 他の人のために悲しい気持ちになるのはどうしてでしょうか？嫌いだから？好きだから？

★今週の聖句

「聖霊を冒瀆する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」

マルコによる福音書 3:29

★ ねらい

- ・ イエス様の働きが内輪もめではなく、真に必要な厳しい戦いであることを覚えない。
- ・ 群衆を一生懸命助けるイエス様と理解できない親族の思いに心を向けたい。

★ 説教作成のヒント

- ・ 三つの内容に分けられる。
 - 1、群衆への奉仕に忙しいイエス一行と無理解な身内 (20-21)
 - 2、エルサレムの律法学者たちのイエスへの最終評価「サタン之力」(22)
 - 3、律法学者へのイエスの教え (23-30)
(サタンの内部分争はありえない (23-26)、悪霊追放のやり方 (27)、聖霊をけがす者への永遠のさばき (28-30))
- ・ イエス様を連れ帰りに来た家族の判断は、この後に出てくる郷里の人々のイエス様に対する不信仰と対応している。

★ 豆知識

- ・ 気が変になる一本来あるべき場所から外れる、正気を失うという意味。
- ・ ベルゼブル・バアル・ゼブブ(列王紀下1章)「気高き主」あるいは「高き館の主」という意味の名で呼ばれていた。これはおそらく嵐と慈雨の神バアルの尊称の一つだったと思われる。つまり、イエス様を神の子ではなく、異教の悪魔の頭と呼んだのである。

★ 説教

ヘレン・ケラーさんを知っているでしょうか？二歳ぐらいの時に、大きな病気(熱病)にかかって、目が見えなくなり、耳が聞こえなくなり、話すこともできなくなった女の人です。お父さんもお母さんもどうしたらよいか分からなかったのですが、家庭教師としてやって来たサリバン先生のお陰で、文字が分かるようになりました。一番有名なのは、サリバン先生がヘレン・ケラーの手に冷たい水をかけて、もう片方の手に指で「W-A-T-E-R」と書いたという話です。そこからヘレン・ケラーは少しずつ学ぶことの面白さを見つけ、頑張って勉強して、大学を卒業しました。さらに、自分と同じように障がい苦しむ人たちのために、いろんな手助けをしたのです。

話すことのできない人の言いたいことを理解できるというのはすごいことだと思いませんか。もしかしたらテレパシーを使えるの？と思ったりしませんか？

イエス様の時代にも話すことができない人や仕事ができない人、動けない人などがたくさんおられました。イエス様はそのお一人お一人の共となられ、お一人お一人を助けて過ごしました。その中にはヘレン・ケラーのように話すことができない人もいたでしょう。誰もその人の言いたいことを理解できるとは思わずに、何もしていなかったでしょう。でも、イエス様は根気強く、色々な方法でその

人の言うことを理解されたのだと思います。でも、周りにいる人にとってはそれは不思議なことに見えたでしょう。どうしてそんなことができるか分かりませんでした。テレパシー？と不思議に思うよりもきっと悪魔の力で分かったに違いないと言ったりしました。イエス様は神さまの子なのに、悪魔のリーダーなんて言うとは失礼だと思いませんか？けれども、わたしたちも自分で理解できないこと、不思議に思うようなことがあると、何か悪いもののせいにしてたりすることがあります。本当は自分がポケットから落としたのに誰かが盗んだと思ったりすることはないでしょうか。後から出て来て反省したことはないでしょうか。悪いように考えたり、弱い気持ちになったり、すばらしい働きを悪魔の力だと思ったりするのはわたしたちの心の中に弱い部分があり、誘惑に負けるからです。誘惑はどこからやってきます。

その誘惑と戦ってくださるために、イエス様は来てくださいました。あなたの心の中で一番強いもの、誘惑の心に対抗するためにわたしは来たのだとイエス様は言われているのでしょう。

イエス様のすばらしい働きが決して悪魔の力ではなく、神さまの力、そこにいる人を愛して大切にする中で生まれてくる力だと覚えましょう。わたしたちの中にある弱い心を縛り上げて、神さまの強い心にしてくださるイエス様と共に歩いて行きましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

7 番

改訂版 9 4 番

やってみよう

「聖霊の力で悪霊を追い出せ！しっぽ取りゲーム！」

<準備するもの> 紙テープ

- ① じゃんけんで1番勝った人が、聖霊です。
- ② 他の人は悪霊です。適当に切った紙テープをズボンやスカートに挟み、逃げます。
- ③ 聖霊にしっぽを取られたら、聖霊に変わり、最初の聖霊の人と協力して悪霊を追いかけます。（どんどん聖霊が増えていきます。）
- ④ 全員が聖霊になったら、手をつなぎ輪になって、声をそろえ「ハレルヤ！ハレルヤ！ハレルヤ！」3回言いながらバンザイします。

※ 走り回るスペースがない場合は、「震源地はだれだ」のゲームの要領で、「悪霊はだれだ？」と題して、鬼(聖霊)が悪霊を当てたら、みんなで「ハレルヤ！～」を3回。というのも楽しいですね。

はなそう

神さまの力とそうではない力、どうやって見分けることができるでしょうか。

人間の心の中には弱さがあります。弱さに勝つのは自分の努力の力でしょうか？

★今週の聖句

「神の国を何にたとえようか。それは、からし種のようなものである。」
マルコによる福音書 4:30-31

★ ねらい

- ・私たちのただ中で、また私たちの中で働いておられる主のご支配とお働きは、たとえ初めは小さいように見えても、大きな結果を生み出さずにはいない。その主のみわざに、ただひたすら信頼する者でありたい。

★説教作成のヒント

- ・神さまのご支配とみわざは、人の知らぬうちに成長し、やがて豊かに実を結ぶようになる。それは人の考え計ることによってなされるのでは決してない。私たちは、ただひたすら、種の中の力に、主のみわざに信頼をしていく者でありたい。
- ・パウロが、またイザヤやエレミヤが、母の胎にある時から、神さまが自分を知っていてくださったと証しをしている。それは神さまに愛されている喜びの証しである。メッセージを語る私たちもそのような喜びのうちに、子どもたちに証しをさせていただきたい。

★豆知識

- ・「からし種」。香辛料のからしは、アブラナ科のからしなの種子を粉末にしたものである。からしなには多くの種類があるが、聖書でいわれる「からし種」は、くろがらしの種子だと考えられる。くろがらしの種子は、日本のからしなと比べて、非常に小さいけれども、発芽するとひじょうにはやく成長して、2～3 m程の高さにまで達する。あぶらなと同じように、黄色の十字の花をつけ、実は2～3 cmのさやになり、その中にとっても小さな種子が入っている。くろがらしは1年草で、木ではないけれども、秋には成長して茎が木のように硬くなり、茎は小鳥の重さに耐えるほどに強くなる。マタイ 17:20 で、「からし種一粒ほどの信仰」について主が語られるが、当時の人々にとって、この植物はよく知られ、身近なものだったのである。



★ 説教

聖書のなかに13通の手紙を書き残したパウロさん。そのパウロさんが、ローマに向かって船出をした港町、目の前が地中海のカイサリアの町で、わたしはその「木」を見つけました。あるピザ屋さんの庭先に、3メートルほどの高さに、こんもりと繁った「木」がありました。枝先には、黄色い十字の小さな花をつけているのです。それはまさに「なたねの仲間」（アブラナ科）の特徴を示す花です。サラダ油のボトルには、なたねの花の絵が描かれていますよね。みなさんが知っている野菜の中には、このなたねの仲間が多いのですよ。例えばキャベツやブロッコリー、かぶらや大根、白菜や水菜もなたねの仲間、みんな十字の花をしています。

その「木」の花も枝の先には、なたねと同じ花をいっぱいつけていました。そして枝の下の方には、すでに実が実っていました。実の中を調べてみると、その中にはほんとうに小さな、小さな種がいっぱい入っていました（写真を見てください）。大きさは0.3ミリほどの、まことにかわいい小さな種でした。その種は、

イエスさまがおっしゃった「からし種」だったのです。こんなに小さな種の中に「いのち」があり、その種はやがて芽を出して、根をはり、茎を伸ばして成長すると、ほんとうに「木」のようになるのです。そして空の鳥が葉っぱの陰に、鳥の巣を作れるほどに大きな「木」になるのです。イエスさまのお話を聞く人たちも、ふだんからその「木」のことをよく知っていたのですね。

イエスさまは、お話を聞く人たちに応じて、いろいろなたとえを用いて、“神の国”のことを人々に教えられました。イエスさまは「神の国を何にたとえようか。それは、からし種のようなものである」、と言われました。神さまがなさることは、私たち人間にはどうもすべてを知ることができません。神さまのみ言葉は、人が知らない間に成長し、大きくなり、豊かに実を結ぶようになります。ほんとに小さいと見えていたものが、まるで「ひとりでに」、何千倍・何万倍もの大きさ、それ以上の大きさになるとイエスさまはおっしゃいます。

神の国とは、まさにわたしたちのただなかで、またわたしたちの間で、神さまが生きて働いておられるということです（ルカ 17:21）。そして神さまは、こんな小さくて弱い私たちをも用いてくださるのです。私たち一人一人を、神さまは、「神さまの愛のうつわ」として用いてくださるのです。私たちの中に蒔かれたみ言葉を、小さいいのちの種を、イエスさまに愛されている喜びを、確実に神さまは育ててくださいます。神さまが育ててくださるのですから、すべてをおまかせして、イエスさまがこの私を愛してくださっている喜びを、お友達や家族の人に伝えていきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

10番

改訂版10番

やってみよう

「小さな種を蒔いて育てよう」

<準備するもの> 小さな種(何でも)、トマト缶などの空き缶（ラベルは剥がしておく）、
キリ、油性マジック

- ① 空き缶の底をキリで数か所穴を開ける。（低学年は、あらかじめ穴を開けておいて、1か所のみ自分で開けるなど、対応して下さい）
- ② 空き缶に自分の名前を油性マジックで書く。色マジックで絵を描いてもよいですね。
- ③ 手作り植木鉢の完成！種をまく。

※教会の適当な場所に置いて育てましょう。どんな芽が出るのかな？うまく育ったら

敬老の日に教会のおじいちゃんおばあちゃんにプレゼントするのも良いかも？！

はなそう

花や木、草が成長（生長）するためにはなにが必要でしょうか？

その中で人間が与えられるものと人間が与えられないもの（自然が与えるもの）に分けてみよう。

大きな木が育ったら何に使いたいですか？

どうしてイエス様はいつもたとえ話をされたのでしょうか？

★今週の聖句

「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか。」
マルコによる福音書 4:41

★ ねらい

- ・ イエス様の言葉は人間を動かすだけではなく、自然をも支配され、天地を創造された神さまの言葉と同じ力をもつことを覚えたい。
- ・ 信頼とは、恐怖心や不安を乗り越える力であり、イエス様に従う時、わたしたちの恐れも吹き飛ばしてくださることを覚えたい。

★ 説教作成のヒント

- ・ 向こう岸に渡られた理由は①イエス様は群衆から少しの間、離れたかった。②イエス様は湖の向こう岸にも伝道しようとなさった。ことと考えられる。
- ・ 風を叱るイエス様の姿は悪霊を追い出されている姿に似ている。海や湖は人にとって危険に満ちた場所で、しばしば悪霊の住みかとも考えられていたようであり、わたしたち一人一人が危険に陥った時にイエス様は声を叱咤激励してくださる。

★ 豆知識

- ・ 「恐れ」には「畏(おそ)れかしこむ」の意味もあります。ギリシア語では「恐れ」も「畏れ」も「フォボス phobos」で区別がありません。
- ・ 「いったい、この方はどなたなのだろう」という疑問の一つの答えがペトロが「あなたはメシア(キリスト)です」(8:29)という信仰告白をすることになる。
- ・ 「デカポリス」とはギリシア語で「10の町」の意味。
- ・ ガリラヤ湖は、大きさとしては茨城県の霞ヶ浦よりやや小さい湖。すり鉢状の地形になっていて、突然嵐が起こることがあったようである。

★ 説教

木村裕一の本で「あらしのよるに」という物語があります。雨が轟々と叩きつける嵐の夜、白いヤギはやっとの思いで丘を滑り降り、壊れかけた小さな小屋にもぐりこみます。小屋の中は真っ暗で何も見えません。ガタン！と音がして、脚をケガしたオオカミが小屋に入ってきますが、暗闇で何も見えず、風邪で鼻も利かず、お互いの姿も見えない中、ヤギは相手をヤギと、オオカミは相手をオオカミだと思ひ込んでしまいます。勘違いしたまま二匹は話を続けていきます。たとえば、フカフカ谷のえさ、草がおいしいとヤギが言うと、オオカミもそこで草を食べているヤギがおいしそうだと相づちをうちます。小さい頃のこと、母親の話などを通して親しみが湧いてきます。その時、突然雷の大きな音がして驚いた二匹は抱き合って寄り添います。ヤギは「あっ、しつれい。どうもわたし、この音によわくて」と言うと、オオカミも「ふうー、おいらもなんですよ。ハアー、びっくりしやしたね」と答えます。「なんか、わたしたちって、にてるとおもいませんか?」。このようにしてやがて不思議な友情が芽生えていきます。嵐が弱くなると二匹は再会の約束をして分かれます。明日のお昼にこの小屋の前で「あらしのよるに」という言葉を合言葉にして会って、一緒にお昼ご飯を食べようと。この後、それぞれヤギとオオカミと分かった二匹には試練があります。友情を取るか、仲間を取るか。オオカミの仲間、ヤギの仲間から理解されない困難や記憶を忘れてしまう困難などもあります。しかし、

最後にはただ生きる存在として互いを受けとめあって生きていくそんな友情が描かれています。あのあらしのよるの出会い、困難を共に歩んできた、励ましあってきたということが彼らの心の中には深く深く大切なこととして刻み込まれていたのです。

今日、イエス様と弟子たちは舟にのって反対側へと行きます。舟が進んでいきますが、途中で激しい突風が吹き、波が入って来て溺れそうになってしまいます。もうダメだ、弟子たちは思いました。舟の中で寝ているイエス様に言います。「わたしたちが溺れてもいいのですか」と。イエスさまは起きて一言、波に言います。「黙れ、静まれ」と。すると波は静まりました。イエス様の言葉は神さまの言葉と同じです。自然もイエス様の言葉を聞くほど力がある言葉です。わたしたちを安心させるだけではなく、大きな力をもっているのです。

そして、弟子たちに「なぜ恐れるのか、まだ信じないのか」と。イエス様を信じる時、どんな波も恐れなくて大丈夫です。イエス様を信頼すること、それが恐れから解放されていく方法です。嵐の中でもわたしたちを助け、受けとめてくださるイエス様を信頼して歩いていきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

7 番

改訂版 4 番

やってみよう

「イエス様が言いましたゲーム」

① 輪になり、リーダーが真ん中に立ちます。

リーダー「風や湖さえも従うイエス様が、みんなに命令します。“イエス様が言いました”と言ったら、皆さんも従ってくださいね。」

(例) 命令ゲームの要領です。

リーダー「イエス様が言いました。手を上げてください。」

～みんなは動作する～

リーダー「はい、おろして下さい。」・・・「あれっ？今、手をおろした人は誰ですか？“イエス様が言いました。”と言ってませんよ！」

という具合にゲームを楽しんでください。

はなそう

信頼するということは簡単なことでしょうか？特に大変なことが起こりそうな時、自分の思い通りではないように感じる時に信頼できるでしょうか？

舟が沈みそうになっていましたが、わたしたち一人一人を舟だと考えると、どんな時に沈みそうになってしまうのでしょうか？

★今週の聖句

「タリタ、クム」「少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい。」
マルコによる福音書 5:41

★ ねらい

- ・ この個所は「ヤイロの娘」のいやしと、「イエスの服に触れた女」のいやしの二つの出来事が記されている。それぞれを取り上げて話をすることもできるが、今回は、二つの出来事の時間の流れを踏まえて、主を信じることについて考えたい。

★ 説教作成のヒント

- ・ 娘のいやしに向かうイエスが途中で足をとめたことはヤイロにとって大きな焦りといら立ちを与えたことでしょう。またその後の「娘が亡くなった」という知らせにヤイロはどれほどの絶望を感じたのでしょうか。しかし、イエスは、このヤイロに「恐れることはない。ただ信じなさい」と語ります。そして、再び娘を立ち上がらせることを通して、信じることはどのような絶望にも勝利することを示されるのです。

★ 豆知識

- ・ 「会堂長」：人々の宗教生活の中心であった会堂で行われる礼拝や運営や、その建物の監督、管理を行っていた。
- ・ 「出血」：レビ15:25には、出血の止まらない女性に触れると「汚れる」と規定されている。
- ・ 「十二年間」と「十二歳」：出血の止まらない女性が病にかかっていた年月と、少女の年齢が同じ十二年である。病を考えると長いと思えるし、少女の命を思うと短いと感じる。

★ 説教

遠い昔のイエス様の時代、ヤイロさんという人がいました。ヤイロさんはみんなから尊敬されるような人で、会堂長というお仕事をしていました。でもこのヤイロさんが今にも泣き出しそうな顔をしてイエス様のところに来て言うのです。

「わたしの幼い娘が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり、生きるでしょう。」(23節)。12歳になる大事な娘が死にそうなのです。でもイエス様ならばきっと助けてくれるに違いないとヤイロさんは思ったのです。イエス様は、このヤイロさんの願いを聞いてくださり、いっしょにヤイロさんのお家に行くことになりました。ヤイロさんはほっと胸をなでおろして、「イエス様に来てくださる。良かった！」と心の中で叫びました。ところが、このようにヤイロさんの家に急いでいる途中のことです。どういうわけかイエス様は急に足を止め、キョロキョロとあたりを見回し始めました。どうやら、誰かがイエス様の服に触ったようであり、イエス様はだれが自分の服に触ったのかを見つけようとされているのです。しばらくすると、大勢の人の中に隠れていた女の人がそっとイエス様の前に出てきました。イエス様は、この人が12年間も病気に苦しめられて、病気が治ることを願ってイエス様の服に触れたことを聞くと、その場所でこの人と話し始めるのです。

この様子を見ていたヤイロさんは気が気でありませんでした。ヤイロさんの娘は今にも死にそうなのです。早くイエス様に来てもらいたいのに、イエス様は立ち止まって、知らない女の人と話し続けています。ヤイロさんのイライラはどんどん大きくなっていきます。そして、まだ二人が話しているうちに、ヤイロさんの家から人がやってきて、「お嬢さんはなくなりました」と告げたのです。ヤイロさんは目の前が真

っ暗になりました。「どうしてイエス様はすぐに来てくれなかったのだろう。あの女のひとと話をすることも大事なお仕事とは思いますが、おかげで愛する娘は死んでしまった。」本当に悔しくて仕方がありません。そのようなヤイロさんを見てイエス様は「恐れることはない。ただ信じなさい」(36節)と言われたのです。

イエス様は、再びヤイロさんと一緒に歩きだし、ようやくヤイロさんの家に着きました。部屋にはすでに死んでしまった女の子が寝ていました。まわりの人たちは悲しくて泣いています。ヤイロさんの心も悲しみでいっぱいになりました。でも、イエス様はこの女の子に近づき、その手を取り、「タリタ、クム」と言われます。「タリタ、クム」とは、「少女よ、あなたに言います。起きなさい。」という意味です。すると死んでいたはずのこの女の子は起き上がったのです。ヤイロさんは驚きました。そして喜びのあまり、生き返った娘をぎゅっと抱きしめました。この時にヤイロさんは、イエス様を前よりももっと深く信じることを心に決めました。何故なら、イエス様を信じるとどんなにダメだと思っても、ダメでなくなることをヤイロさんはたくさん知ったからです。

「もう間に合わない。」「もう終わりだ。どうしようもない。」そのような気持ちになった時に私たちは目の前が真っ暗、その場にへたり込んでしまいそうです。神様なんていないし、いたとしても何も私たちの望みを叶えてくれないような気持ちにもなります。でもイエス様は、そのような私たちに「恐れなくて信じる」大切さを教えます。そして、死んだ女の子を「タリタ、クム」と言って起き上がらせたように、もう絶対にダメだと思ってしまう私たちも、もう一度、起き上がらせて元気に歩いて行く力をお与えになるのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか” (日キ版) より

100-2番

改訂版7番

やってみよう

「風をさがそう」

<準備するもの> 広告紙、すずらんテープ セロテープ

- ① 広告紙をなるべく細くまいて棒を作ります。
- ② 棒の先に 細くさいたすずらんテープを、セロテープで止める。
- ③ 外に出て、いろいろな場所で風を探してください。

※目には見えないけど、確かにおられるイエス様を信じることができますように・・・

はなそう

ヤイロさんはどんな気持ちでイエス様のところに行ったのでしょうか。

イエス様なら治してくれる?あまり信じていなかった?娘のところに行ったか?

十二歳の娘が起き上がった時のヤイロと母親の気持ちはどんな気持ちだったのでしょうか。

十二年間出血が止まらない女性をどうしてイエス様は探したのでしょうか。

イエス様はどうして他の人にこの出来事を教えてはいけないといたったのでしょうか。